

9 「孤立ゼロプロジェクト」など

-
- (1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況
 - (2) 地域包括支援センター、及び業務内容の認知
 - (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向
 - (4) 「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況
 - (5) 「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂取状況
 - (6) 現在の就労状況と、就業者における仕事と仕事以外の生活の調和
 - (7) 「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況
-

9 「孤立ゼロプロジェクト」など

(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

問36 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか（○は1つだけ）。

※「孤立ゼロプロジェクト」とは、地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

■【知っている】は2割台半ばで、「知らない（初めて聞いた）」が約7割

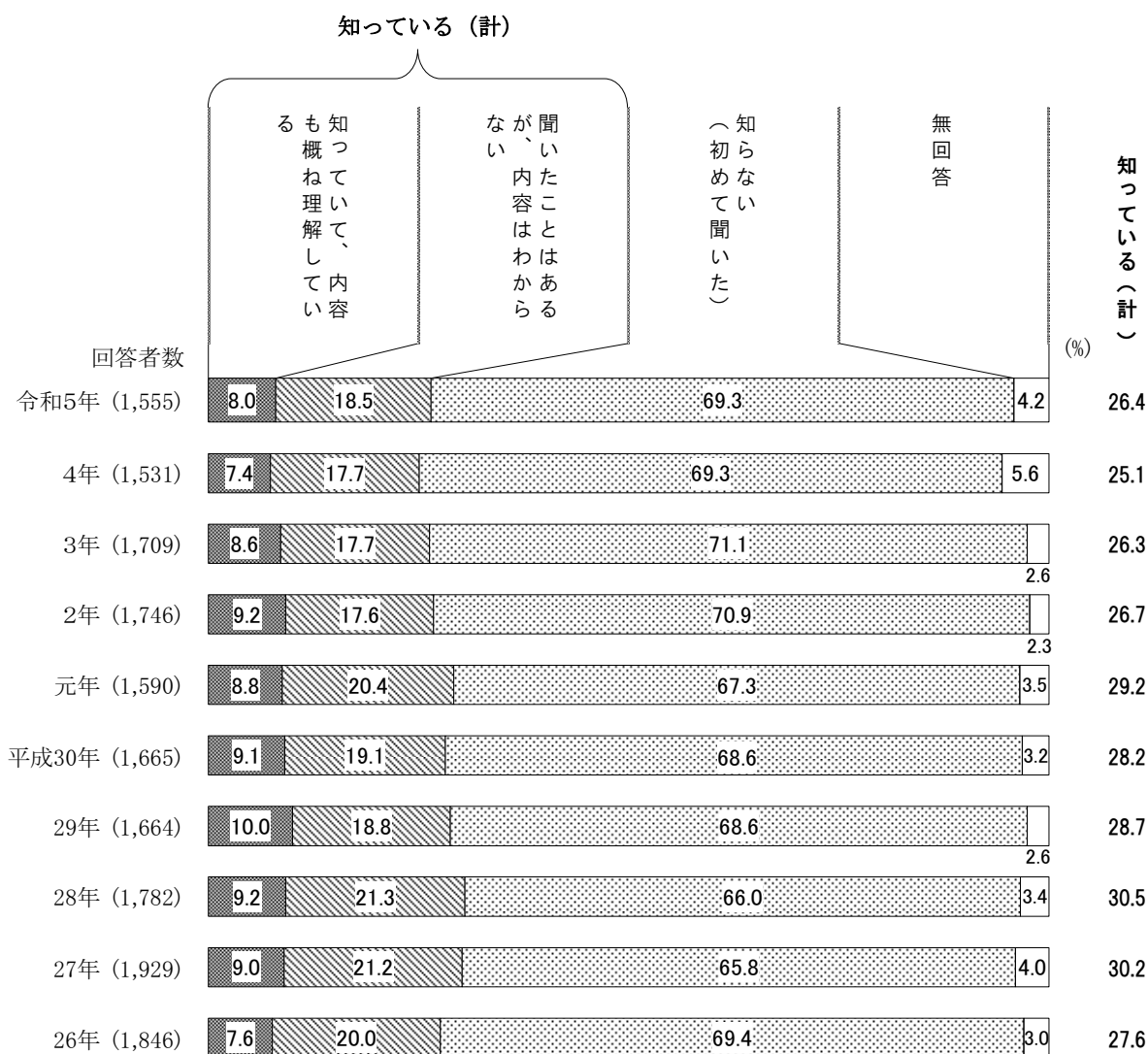
ア 単純集計・経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

(ア) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況は、「知っていて、内容も概ね理解している」が8.0%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の18.5%を合わせた【知っている】は26.4%となっている。

(イ) 「孤立ゼロプロジェクト」を「知らない（初めて聞いた）」は69.3%を占めている。

(ウ) 前回調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

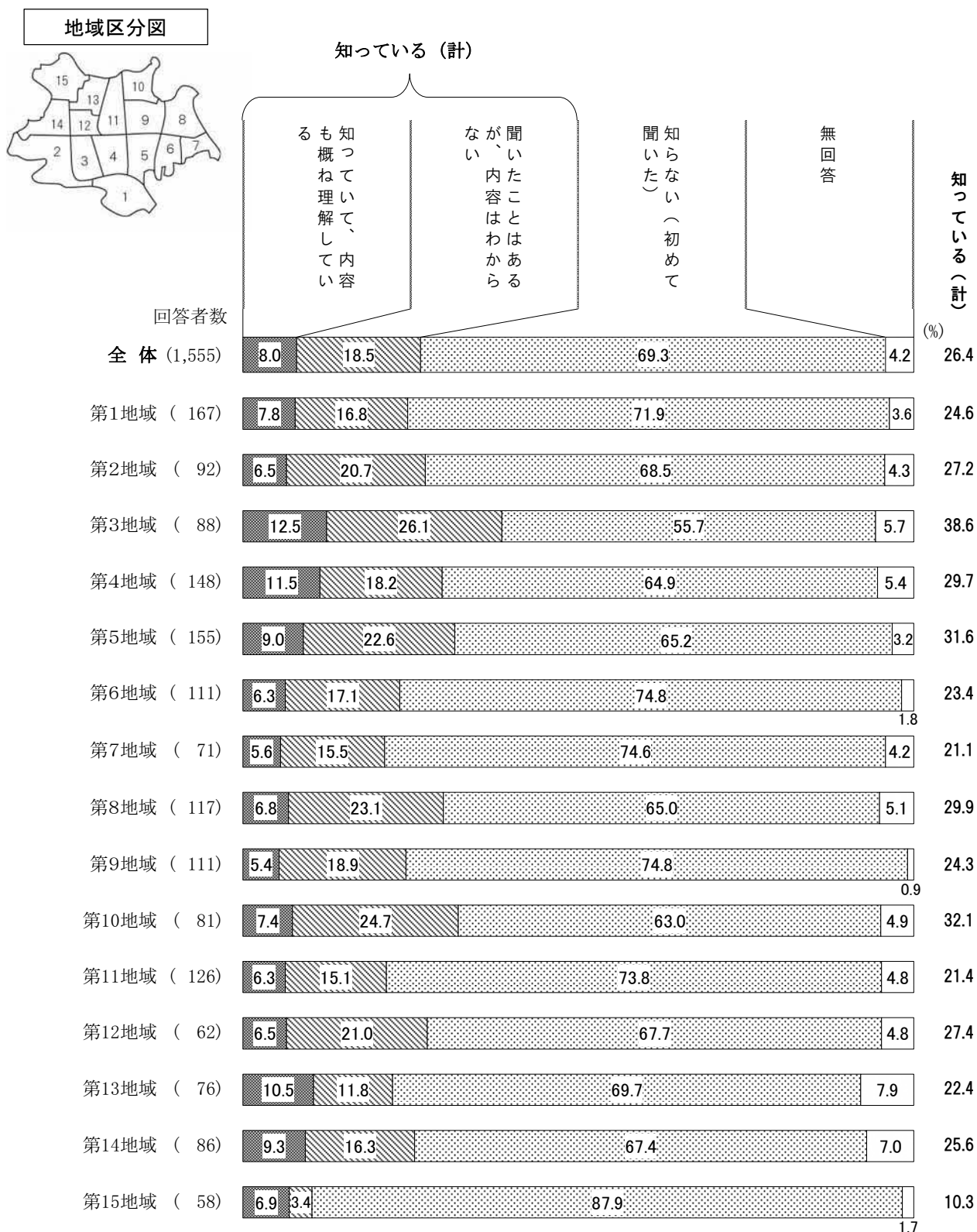
図9-1-1 経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



イ クロス集計・地域別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

地域別で見ると、【知っている】は第3地域が38.6%で最も高く、次いで第10地域と第5地域が3割超で続いている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は第15地域が87.9%で特に高くなっている。

図9-1-2 地域別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

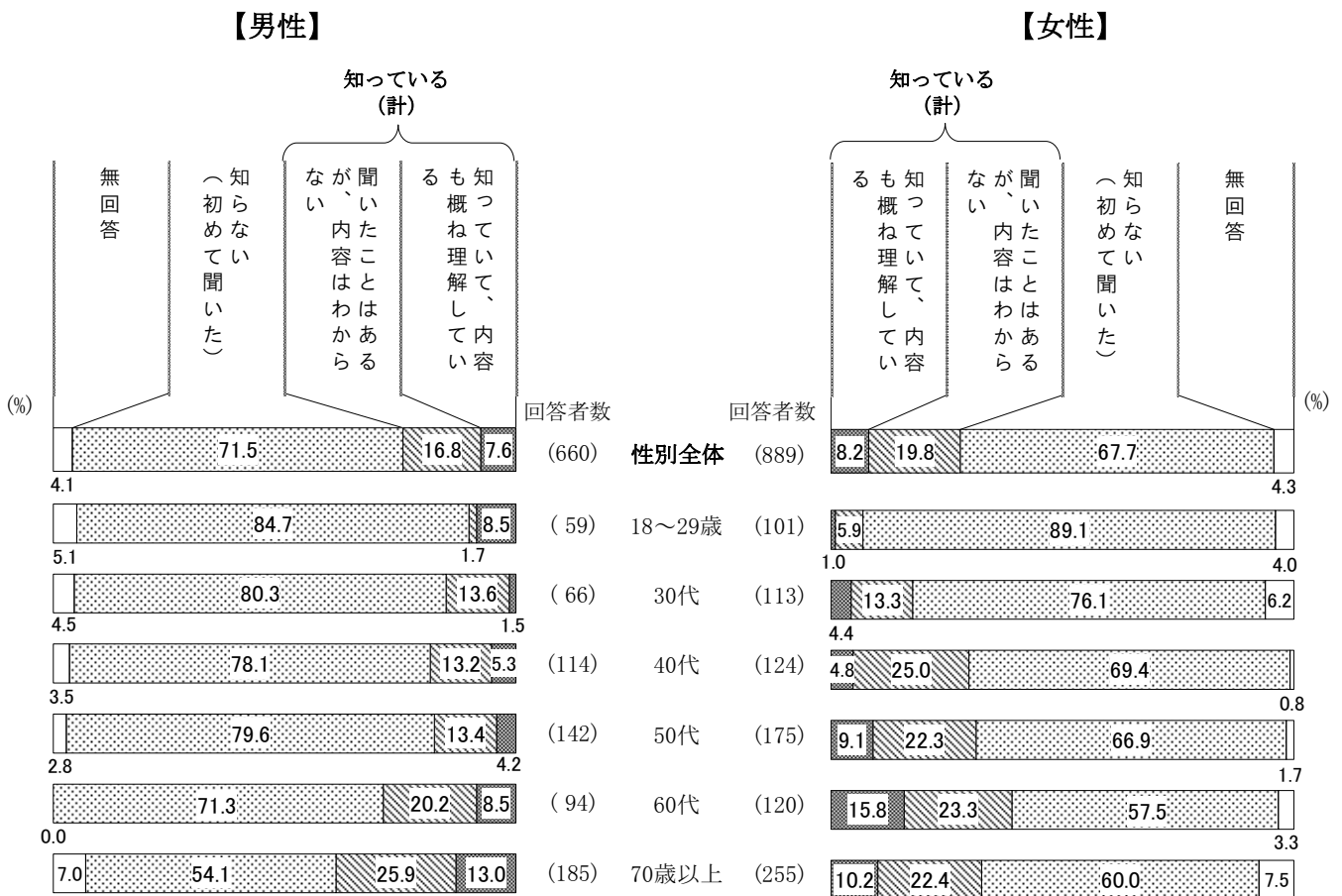


ウ クロス集計・性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

(ア) 性別で見ると、【知っている】は女性（28.0%）の方が男性（24.4%）より3.6ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は女性の60代が39.2%と最も高く、僅差で男性の70歳以上（38.9%）が続いている。逆に、女性の18～29歳で6.9%と特に低くなっている。

図9-1-3 性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



（2）地域包括支援センター、及び業務内容の認知

問37 現在、区内には、高齢者の介護や生活上の相談等を受ける地域包括支援センターがあります。あなたは、地域包括支援センター（ホウカツ）の業務内容を知っていますか（○はあてはまるものすべて）。

- 【業務内容を知っている】が4割台半ば近く、「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」が3割台半ば
- 知っている業務内容は、「高齢者の健康や介護の相談」、「介護保険サービスの相談」、「高齢者宅への訪問調査」の順

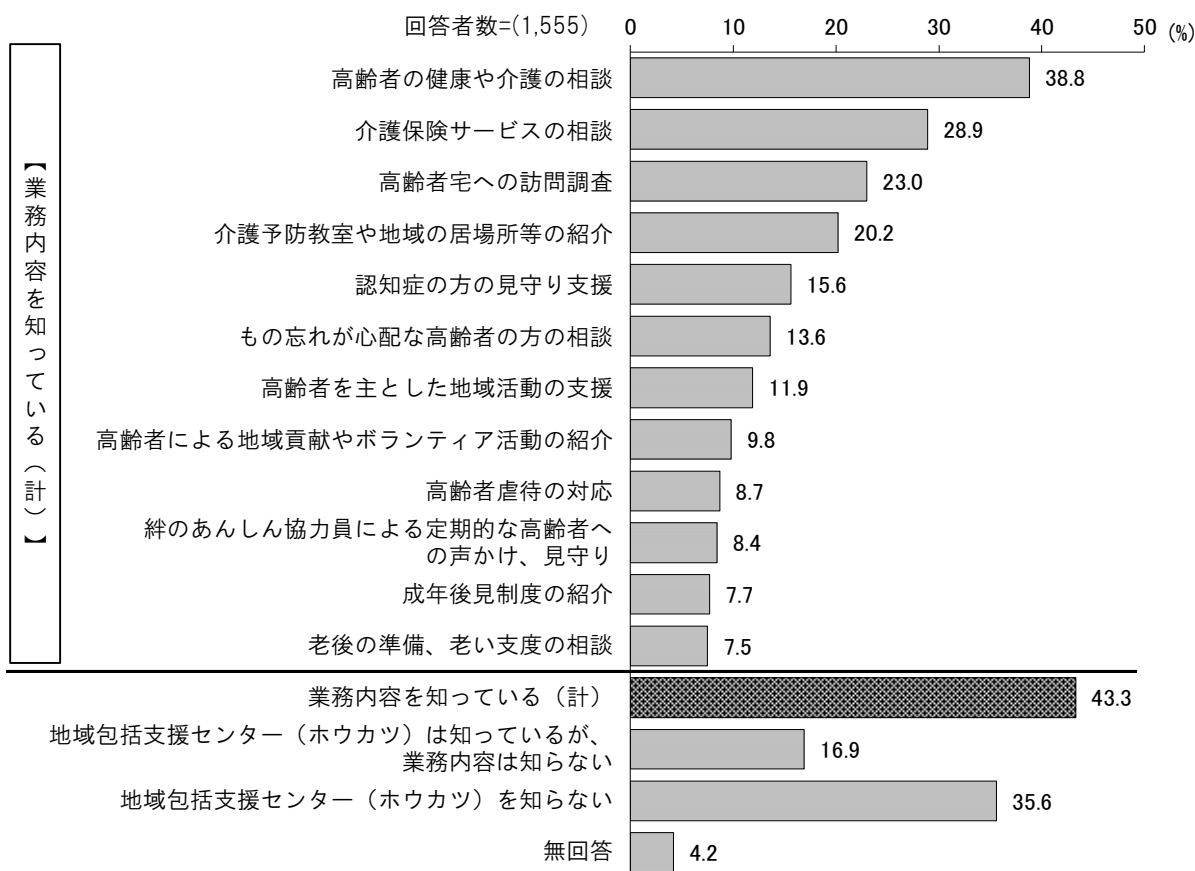
ア 単純集計／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

（ア）地域包括支援センターの認知については、【業務内容を知っている】が43.3%で、「地域包括支援センターは知っているが、業務内容は知らない」が16.9%、「地域包括支援センターを知らない」が35.6%となっている

（イ）知っている業務内容の上位は以下のとおりとなっている。

- ① 「高齢者の健康や介護の相談」（38.8%）
- ② 「介護保険サービスの相談」（28.9%）
- ③ 「高齢者宅への訪問調査」（23.0%）
- ④ 「介護予防教室や地域の居場所等の紹介」（20.2%）

図9-2-1 地域包括支援センターの業務内容の認知

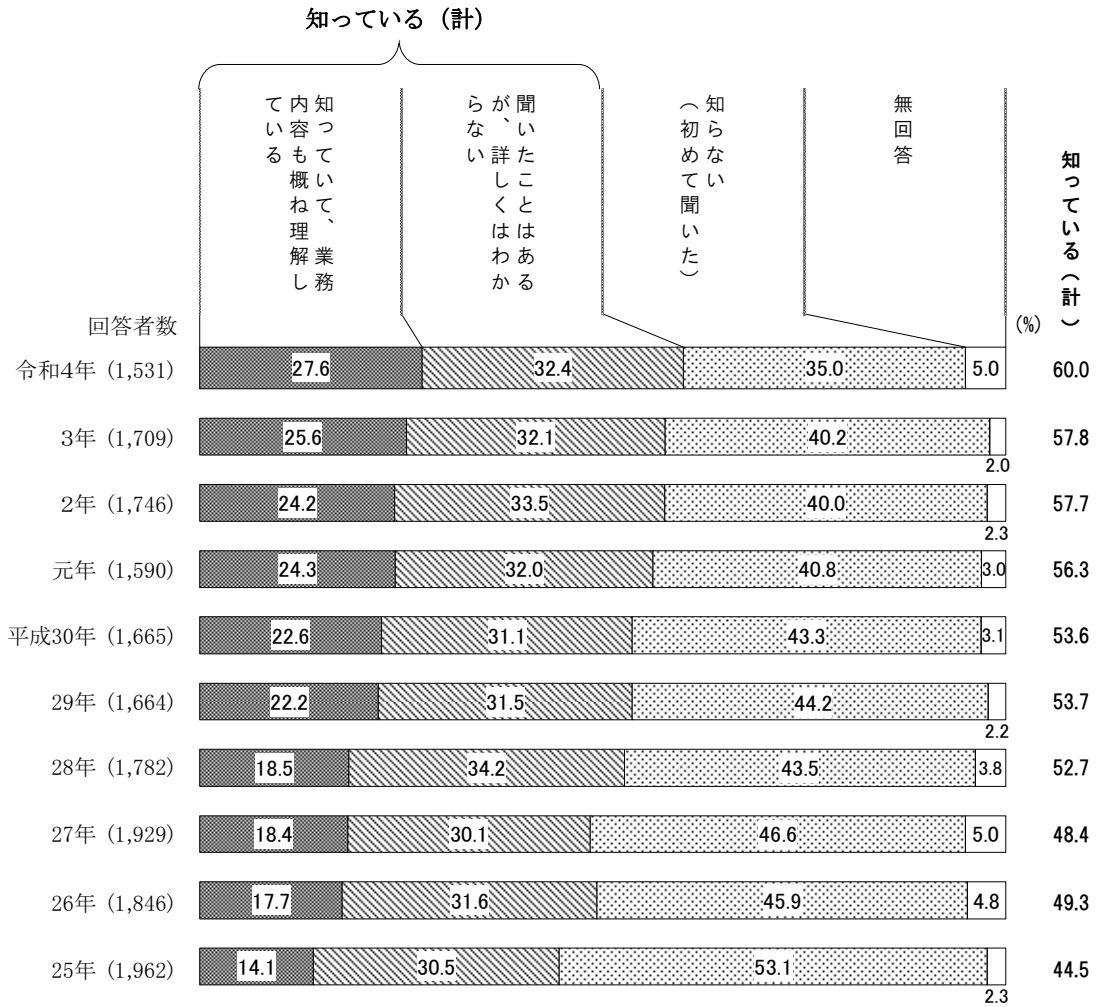


※《業務内容を知っている（計）》＝100%－「地域包括支援センター（ホウカツ）は知っているが、業務内容は知らない」－「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」－「無回答」

参考／地域包括支援センターの認知

問 あなたは、「地域包括支援センター（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。

※「地域包括支援センター」は、足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の健康や介護に関する様々なご相談に応じています。



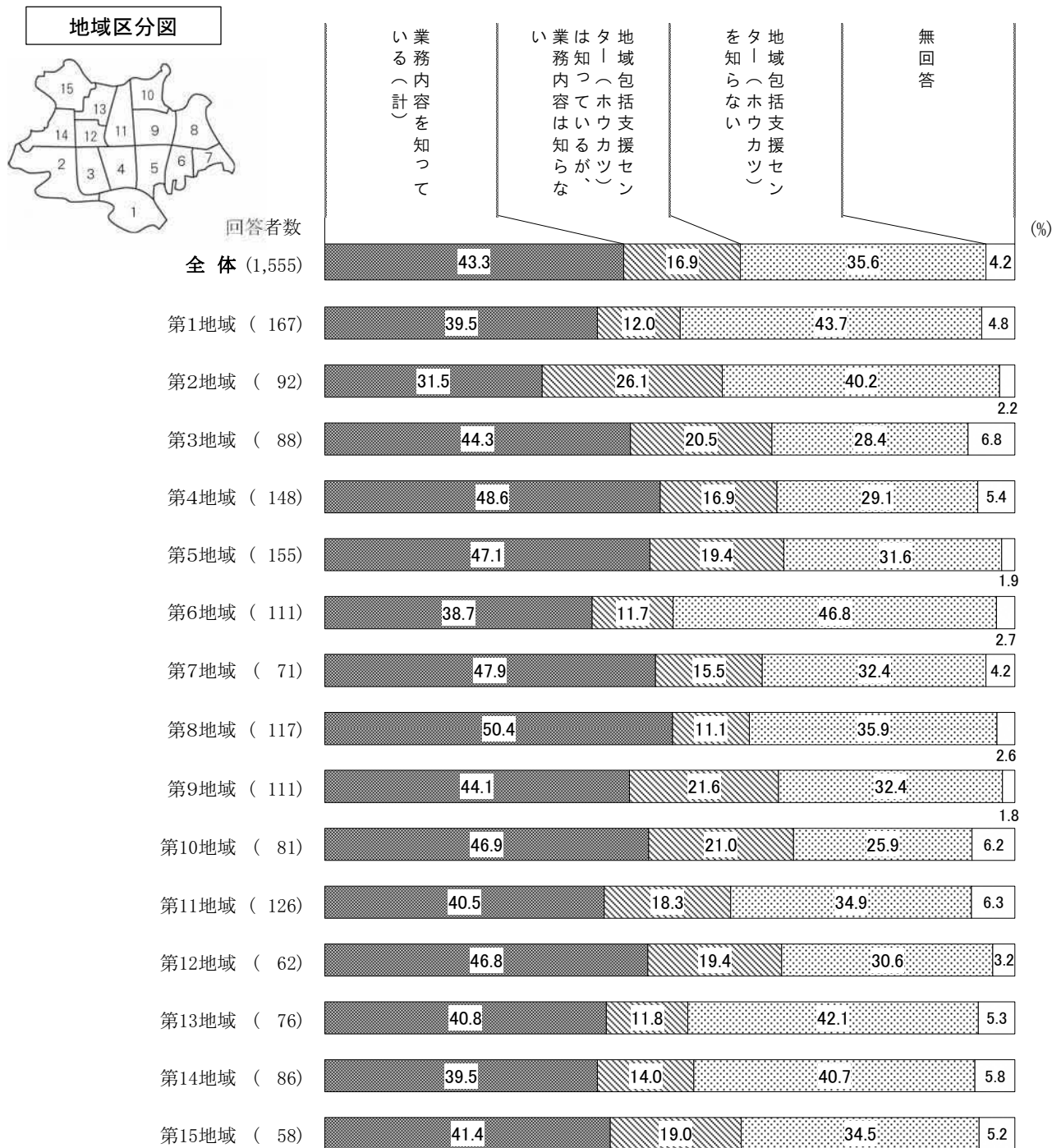
※ 前回の令和4年度までは「地域包括支援センター」の認知のみを聴いていたが、令和5年度調査では認知に併せて、業務内容を選択肢で提示して聴いたことから、認知状況に影響を与えたと考えられるため、単純に比較できない。

イ クロス集計／地域別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

（ア）地域別に認知状況をみると、《業務内容を知っている》は第8地域が50.4%で最も高く、次いで、第4地域（48.6%）、第7地域（47.9%）などとなっている。

（イ）「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」は第6地域が46.8%で最も高く、次いで、第1地域（43.7%）、第13地域（42.1%）などとなっている。

図9-2-2 地域別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

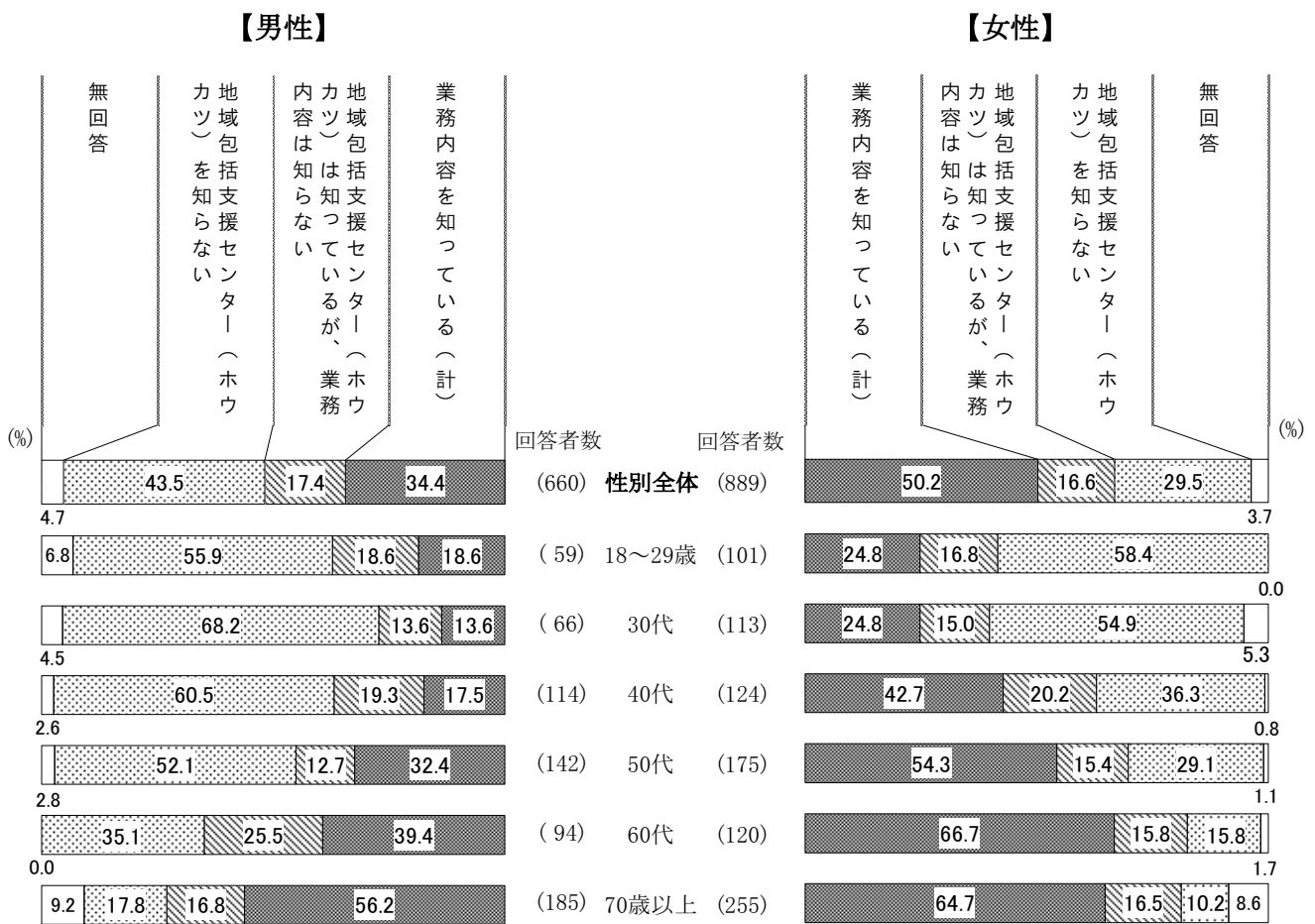


ウ クロス集計／性、性・年代別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

(ア) 性別にみると、《業務内容を知っている》は、女性（50.2%）の方が男性（34.4%）より15.8ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、《業務内容を知っている》は、女性の60代で66.7%と最も高く、次いで、女性の70歳以上（64.7%）、男性の70歳以上（56.2%）、女性の50代（54.3%）などとなっている。一方、「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」は男性の30代で68.2%と最も高く、男性の50代以下と女性の30代以下の年齢層で5割以上となっている。

図9-2-3 性別、性・年代別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知



（3）高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

問38 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか（○は1つだけ）。

■【協力したい】は約2割で変化ないが、【協力できない】は4割超で前回から減少

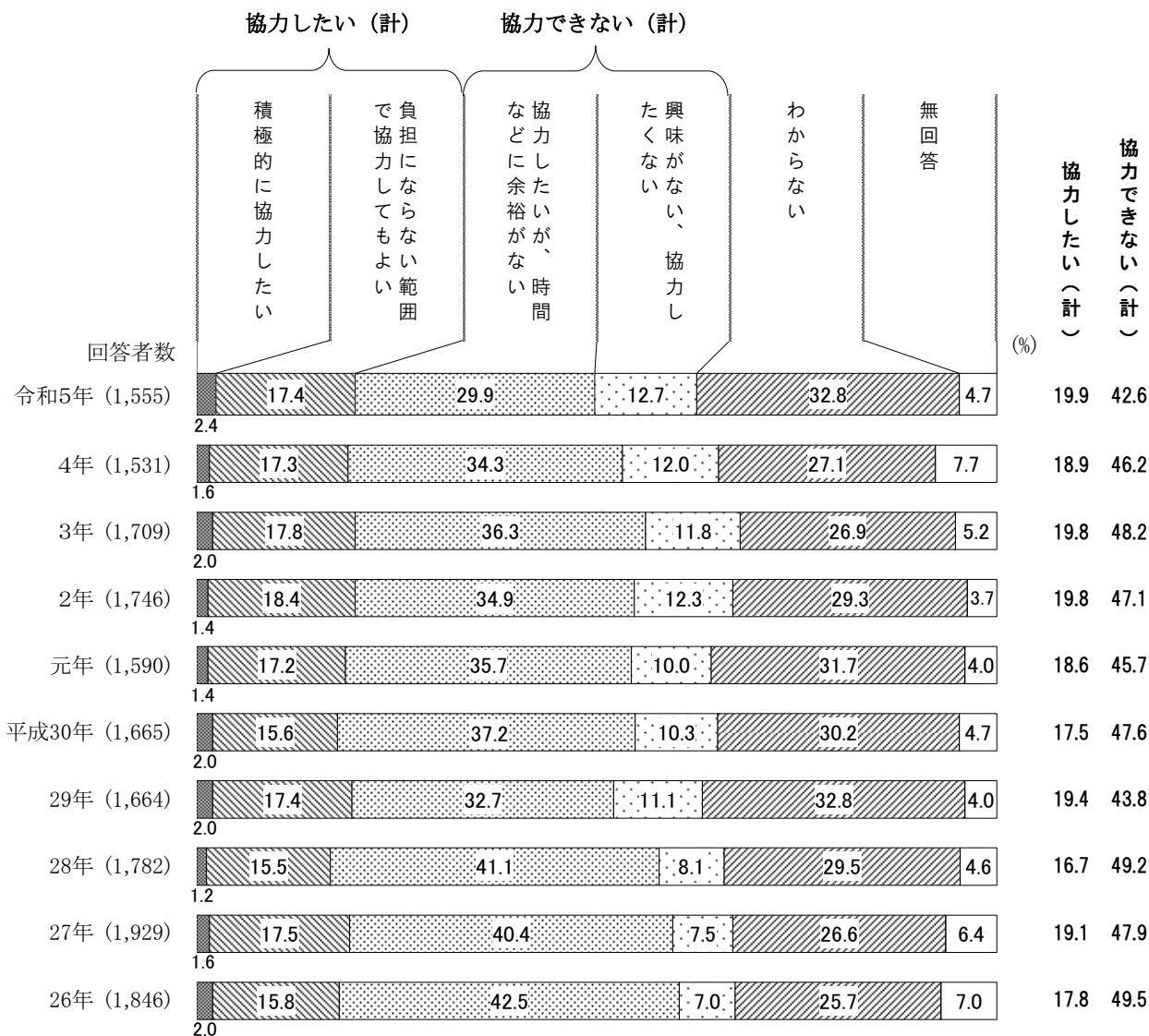
ア 単純集計・経年比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

（ア）高齢者の孤立防止や見守り活動に「積極的に協力したい」は2.4%で、これに「負担にならない範囲で協力してもよい」（17.4%）を合わせた【協力したい】は19.9%となっている。

（イ）活動に「協力したいが、時間などに余裕がない」は29.9%で最も高く、これに「興味がない、協力したくない」（12.7%）を合わせた【協力できない】は42.6%となっている。

（ウ）前回調査との比較では、【協力できない】が3.6ポイントの減少となっている。

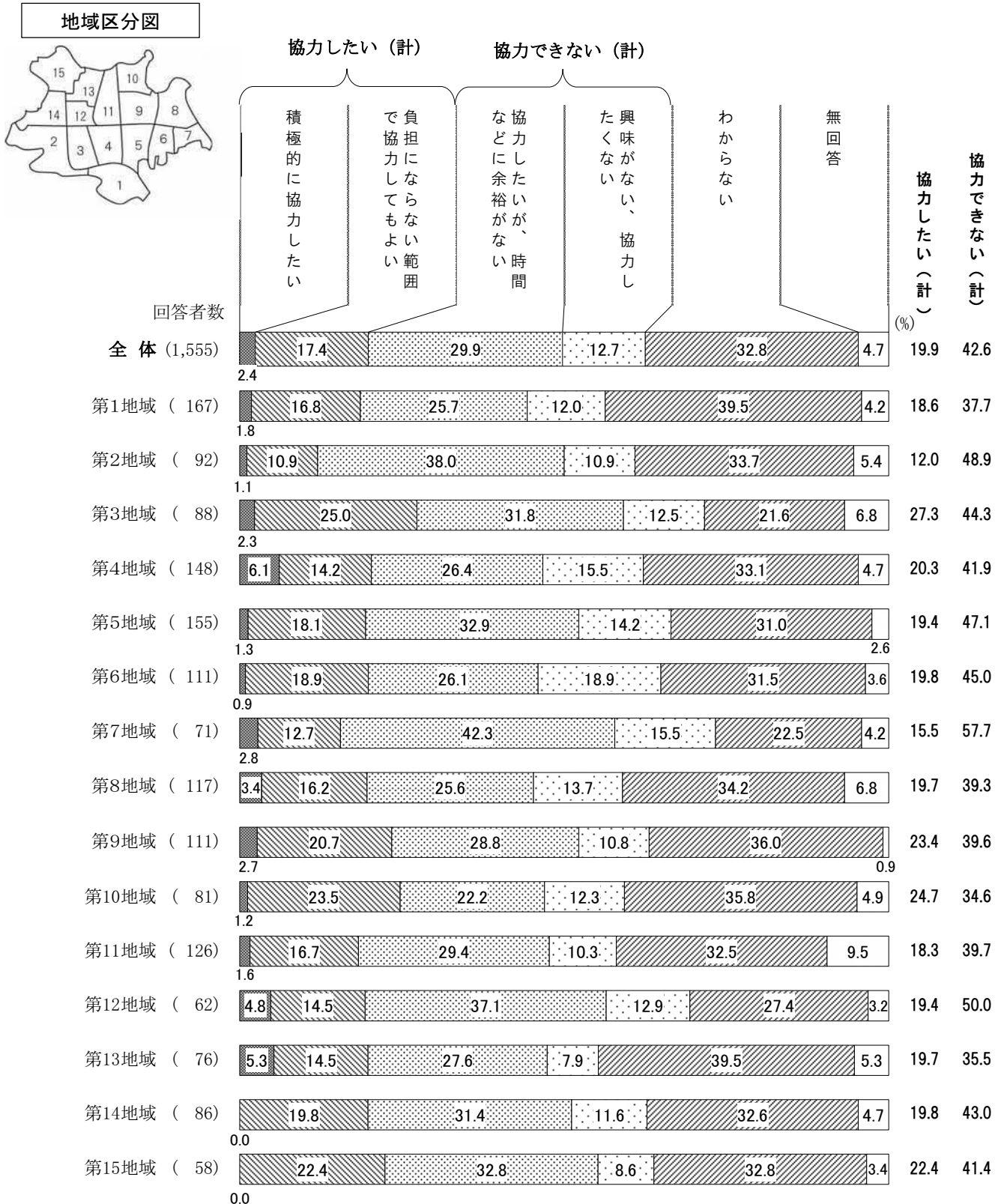
図9-3-1 経年比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



イ クロス集計・地域別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

地域別でみると、【協力したい】は第3地域が27.3%で最も高く、次いで、第10地域と第9地域が2割台半ばで続いている。一方、【協力できない】は第7地域が57.7%と特に高く、次いで、第12地域が5割となっている。

図9-3-2 地域別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

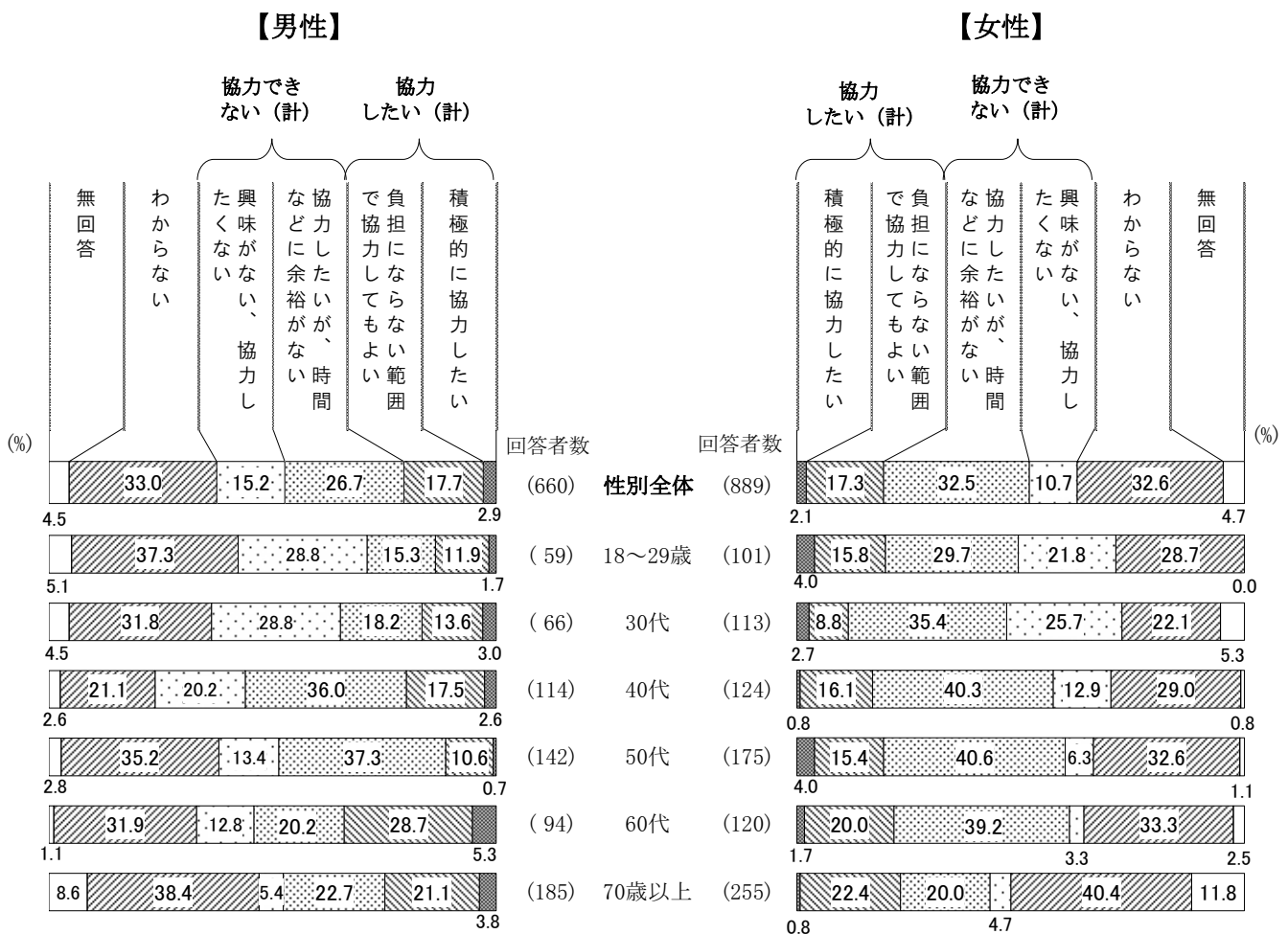


ウ クロス集計・性別、性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

(ア) 性別で見ると、【協力したい】では性差はないが、「協力したいが、時間などに余裕がない」は女性の方が5.8ポイント高く、「興味がない、協力したくない」は男性の方が4.5ポイント高くなっており、女性の方が協力意向は高いことがうかがえる。

(イ) 性・年代別で見ると、【協力したい】は男性の60代（34.0%）で最も高く、男性の50代（11.3%）で最も低くなっている。これは、「協力したいが、時間などに余裕がない」（50代：37.3%・60代：20.2%）の割合の差によるものとみられる。一方、【協力できない】は、女性の30代が61.1%で最も高く、次いで男性の40代（56.1%）と女性の40代（53.2%）が5割台半ばで続いている。

図9-3-3 性別、性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



（4）「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

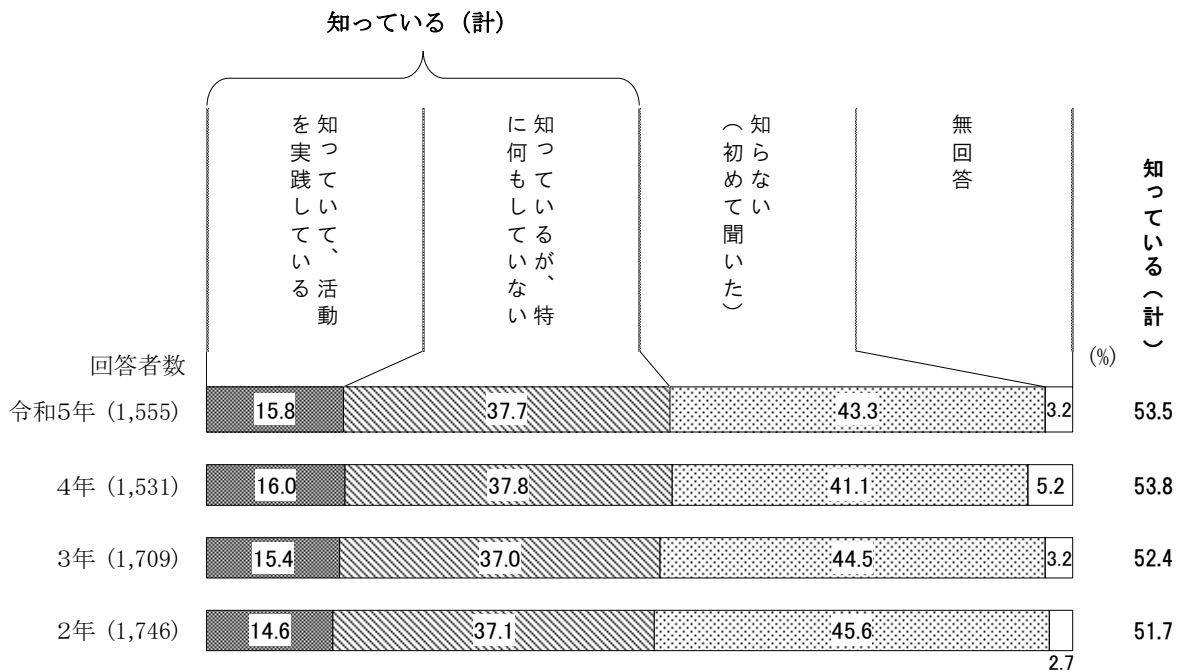
問39 あなたは、高齢期におこりやすい、筋力や心身の機能などが低下し、衰弱した状態「フレイル」にならないためには、「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」が大切なことを知っていますか（○は1つだけ）。

■【知っている】は5割台半ば近く、「知らない（初めて聞いた）」は4割台半ば

ア 単純集計・経年比較／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

- （ア）「フレイル」にならないために「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」が大切なことの認知とその実践状況は、「知っていて、活動を実践している」は15.8%となっており、これに「知っているが、特に何もしていない」（37.7%）を合わせた【知っている】は53.5%となっている。
- （イ）「フレイル」にならないための活動について「知らない（初めて聞いた）」は43.3%となっている。
- （ウ）前回調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

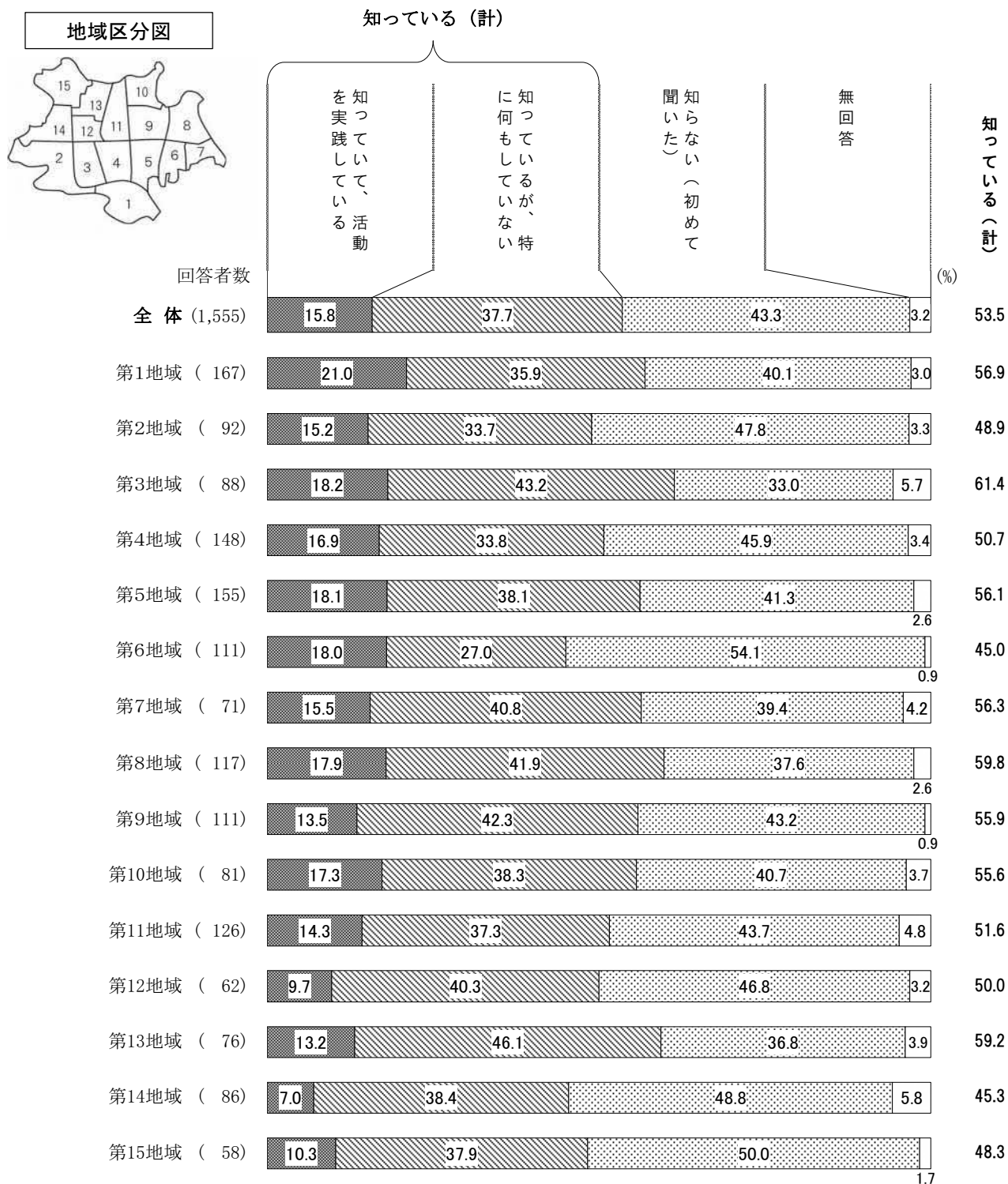
図9-4-1 経年比較／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況



イ クロス集計・地域別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

地域別でみると、「知っていて、活動を実践している」は第1地域が21.0%で最も高く、次いで、第3地域（18.2%）、第5地域（18.1%）、第6地域（18.0%）が続いている。【知っている】でみると、第3地域が61.4%で最も高く、次いで第8地域と第13地域が約6割で続いている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は第6地域が54.1%で最も高くなっている。

図9-4-2 地域別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

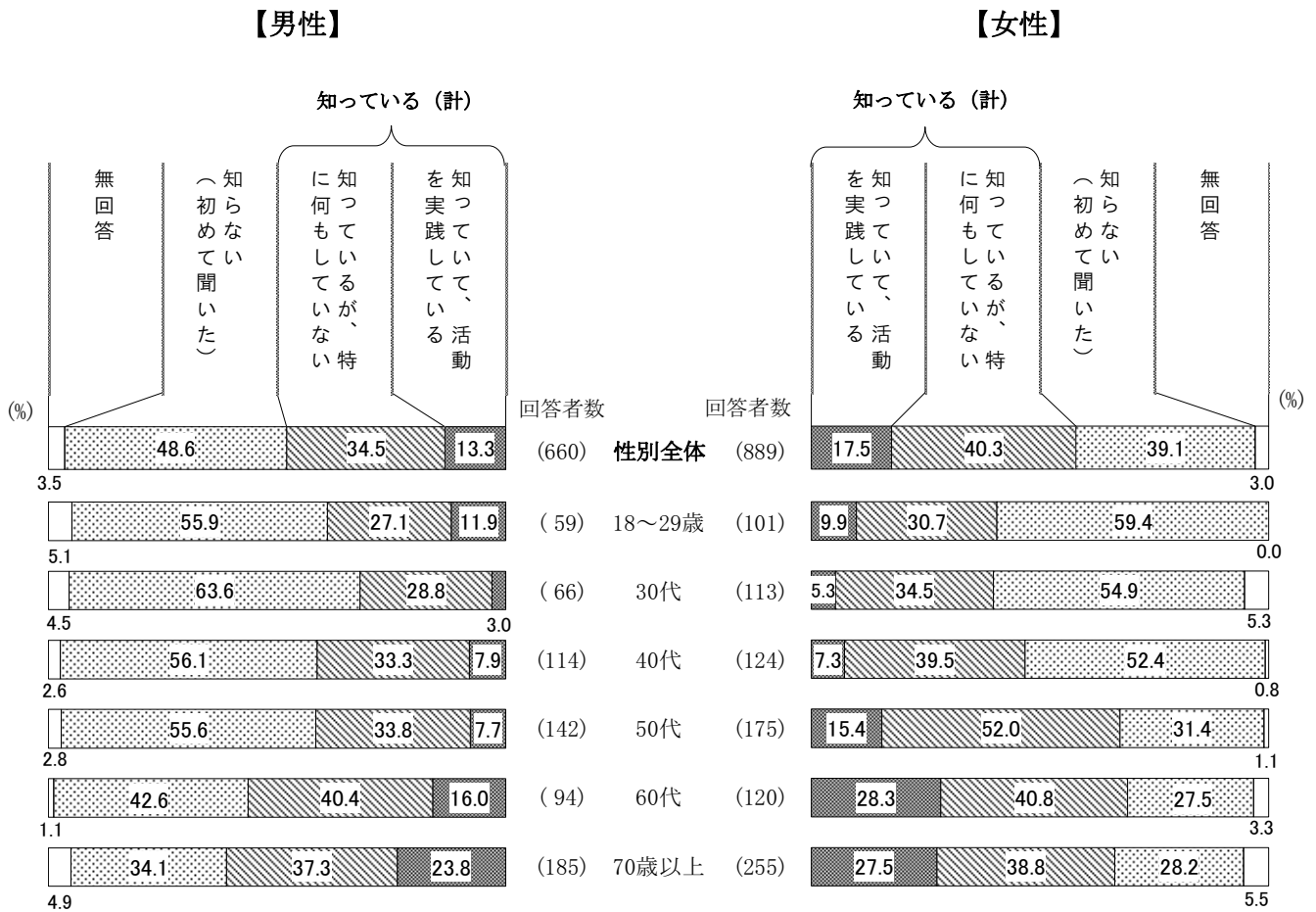


ウ クロス集計・性別、性・年代別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

(ア) 性別で見ると、【知っている】は女性（57.8%）の方が男性（47.9%）より9.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は、女性の50代、60代、70歳以上でもともに6割台後半と高く、男性の70歳以上でも6割台前半となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は男性の30代で6割台半ばと最も高く、男性の50代以下と女性の40代以下で5割台と高くなっている。

図9-4-3 性別、性・年代別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況



(5) 「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂取状況

問40 あなたは、たんぱく質を多く含む食品（肉、魚、卵、大豆製品の1種類以上）をどれくらいの頻度で食べていますか（○は1つだけ）。
 ※「フレイル」になる要因の一つとして、たんぱく質の不足があげられます。

■ 「毎食（1日3回）食べている」が2割、「1日2回位食べている」が3割強

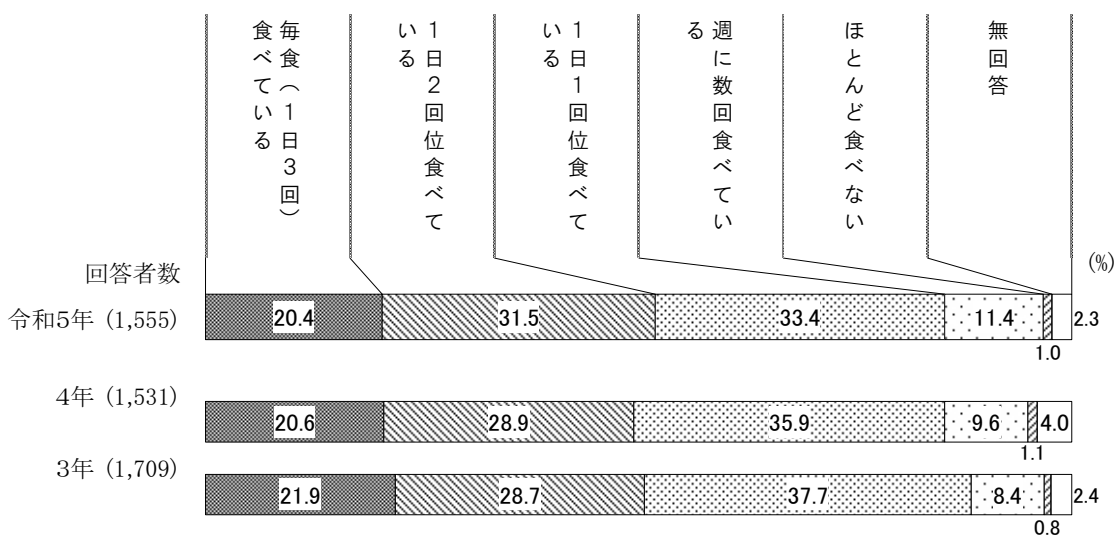
ア 単純集計・経年比較／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

(ア) 「たんぱく質を多く含む食品」の摂食頻度は、高い順にみると以下のとおりとなっている。

- ① 「1日1回位食べている」(33.4%)
- ② 「1日2回位食べている」(31.5%)
- ③ 「毎食（1日3回）食べている」(20.4%)
- ④ 「週に数回食べている」(11.4%)
- ⑤ 「ほとんど食べない」(1.0%)

(イ) 前回調査との比較では、回答割合に特に大きな違いはみられない。

図9-5-1 経年比較／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

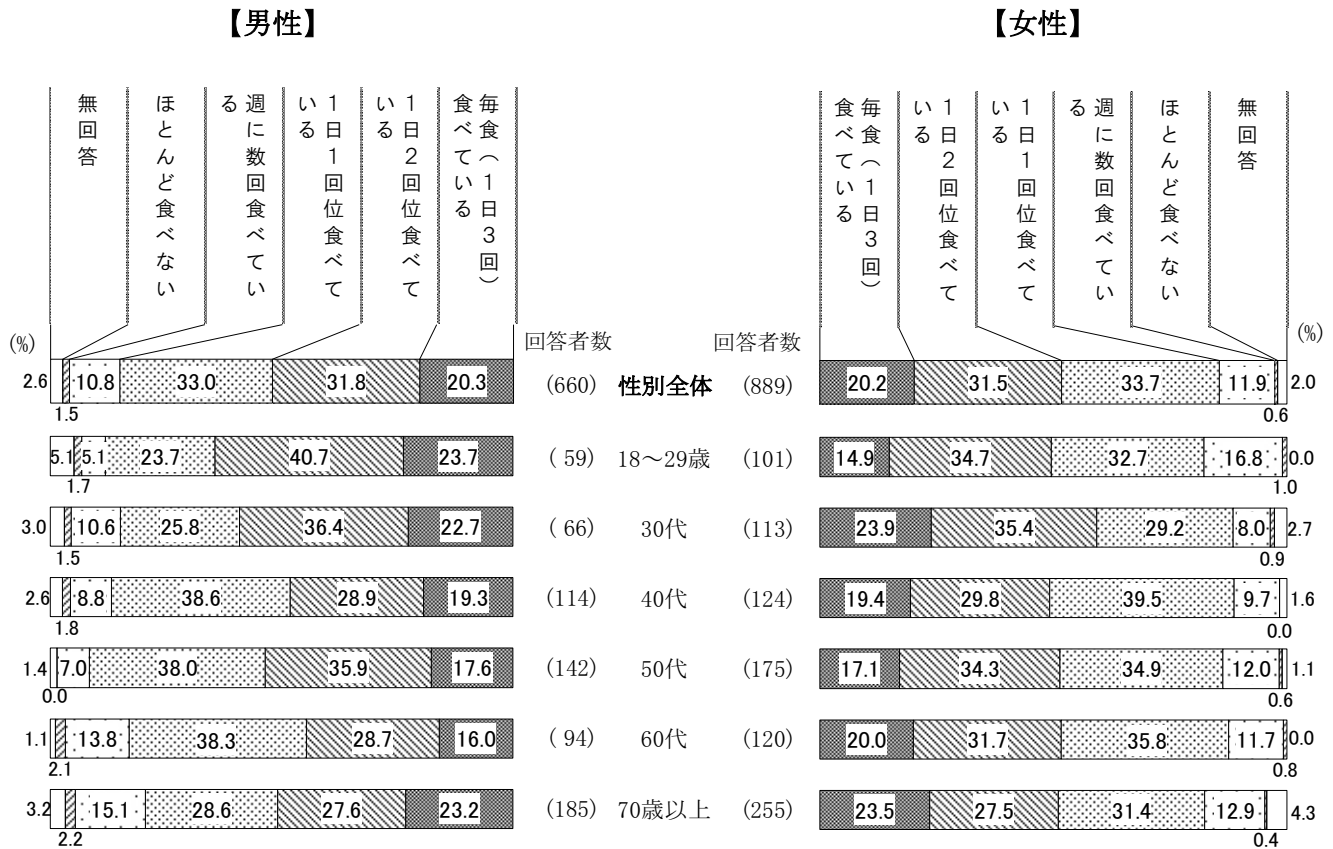


イ クロス集計・性別、性・年代別／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

(ア) 性別で見ると、特に大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で見ると、「毎食（1日3回）食べている」は女性の30代（23.9%）で最も高く、次いで、男性の18～29歳（23.7%）、女性の70歳以上（23.5%）、男性の70歳以上（23.2%）が僅差で続いている。

図9-5-2 性別、性・年代別／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況



（6）現在の就労状況と、就業者における仕事と仕事以外の生活の調和

問41 あなたは、仕事と仕事以外の生活の調和が取れていると思いますか（○は1つだけ）。

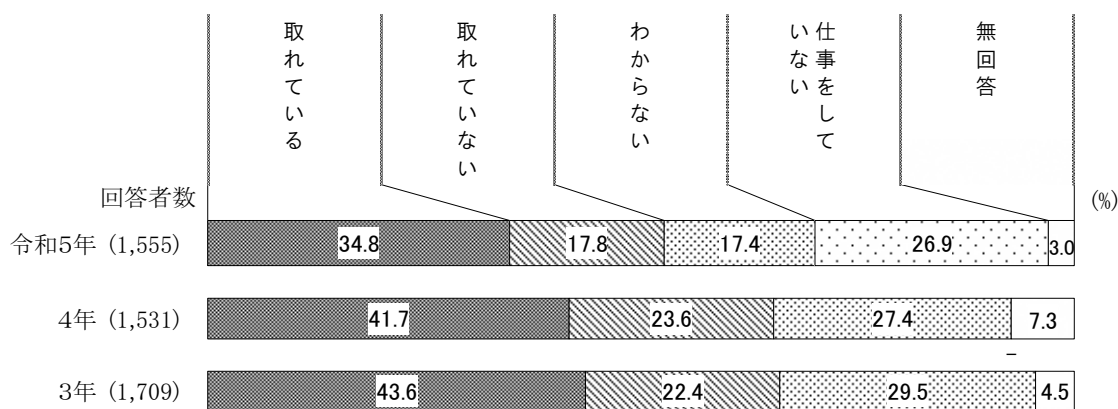
■「取れている」が3割台半ば、「取れていない」と「わからない」が1割台半ば超、一方、「仕事をしていない」は2割台半ば

ア 単純集計・経年比較／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和

（ア）仕事と仕事以外の生活の調和について、「取れている」が34.8%で、「取れていない」（17.8%）と「わからない」（17.4%）がほぼ同じ割合となっている。

（イ）前回調査との比較は、今回調査で「仕事をしていない」を新設したため、単純に比較できないが、参考として図示している。

図9-6-1 経年比較／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和

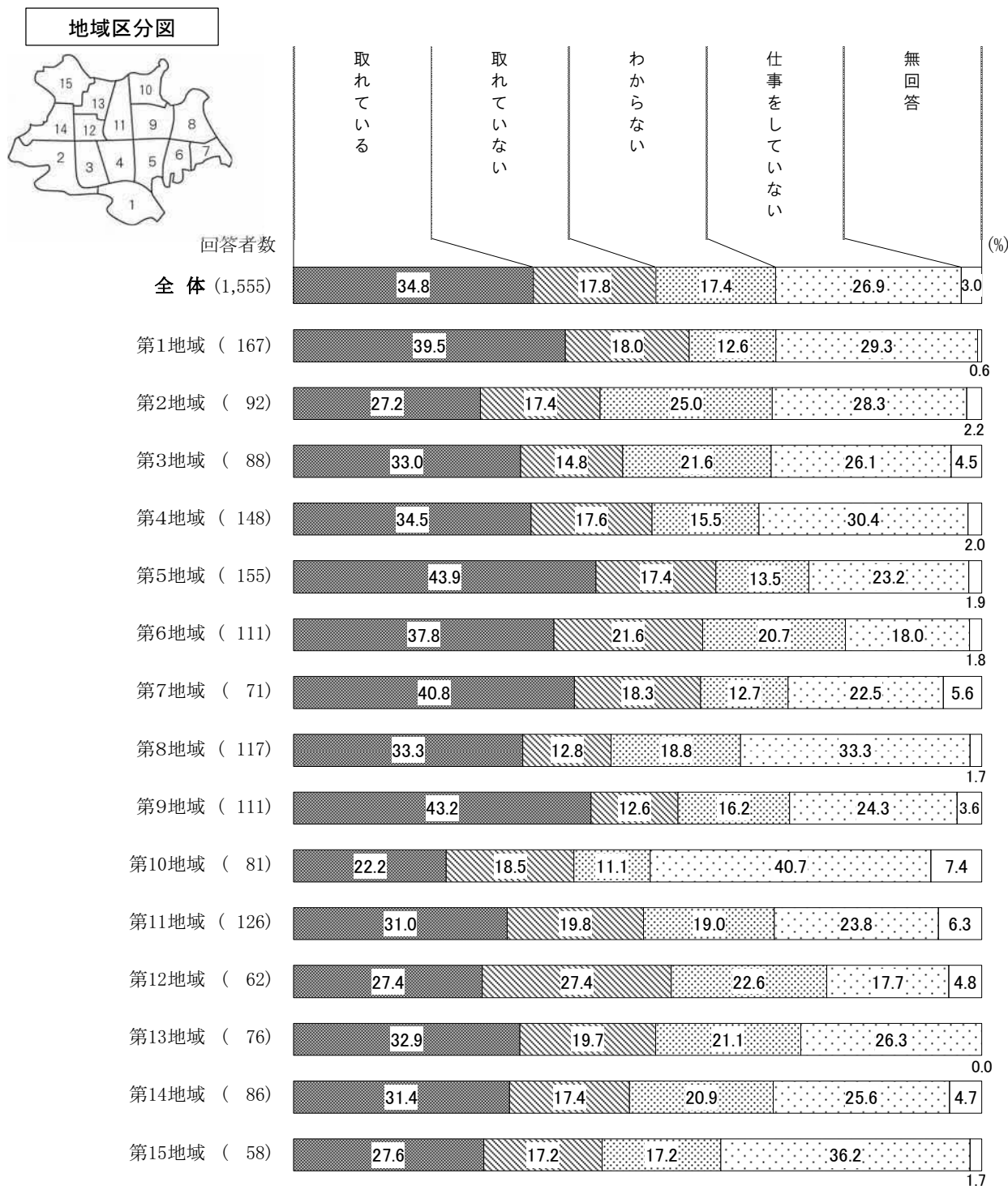


※「仕事をしていない」は、令和5年度調査からの新設項目。

イ クロス集計・地域別／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和

地域別で見ると、「取れている」は第5地域が43.9%で最も高く、次いで、第9地域（43.2%）と第7地域（40.8%）が4割台で続いている。一方、「取れていない」は第12地域が27.4%で特に高く、次いで、第6地域（21.6%）となっている。

図9-6-2 地域別／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和

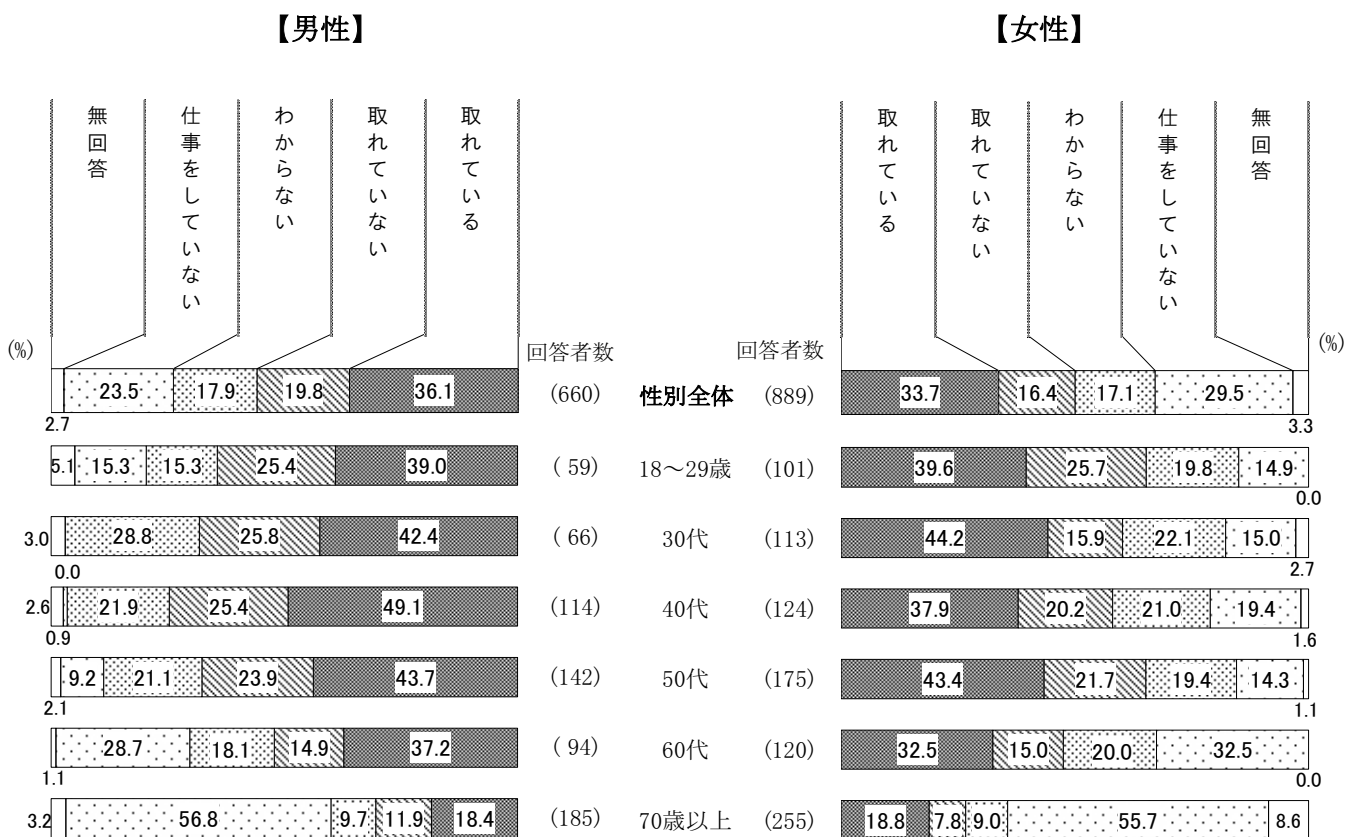


ウ クロス集計・性別、性・年代別／仕事と仕事以外の生活の調和

(ア) 性別で見ると、「取れていない」は、男性（19.8%）の方が女性（16.4%）より3.4ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、各年代で就業率が異なることから、就業者数（＝“回答者数”－“仕事をしていない”－“無回答”）を100%として【取れている】【取れていない】【わからない】の回答割合を再計算して比較してみた。その結果、【取れている】は女性の30代で53.8%と最も高く、男性の40代（50.9%）と60代（53.0%）、女性の50代（51.4%）と70歳以上（52.7%）で5割以上となっている。一方、【取れていない】は、男女とも18～29歳で3割台（男性：31.9%・女性：30.2%）と高くなっている。

図9-6-3 性別、性・年代別／仕事と仕事以外の生活の調和



(7) 「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況

問42 あなたは、下記のア、イについて知っていますか（○はそれぞれ1つずつ）。

■【知っている】は「身体的暴力以外のDV」が9割弱、「LGBT」が8割弱

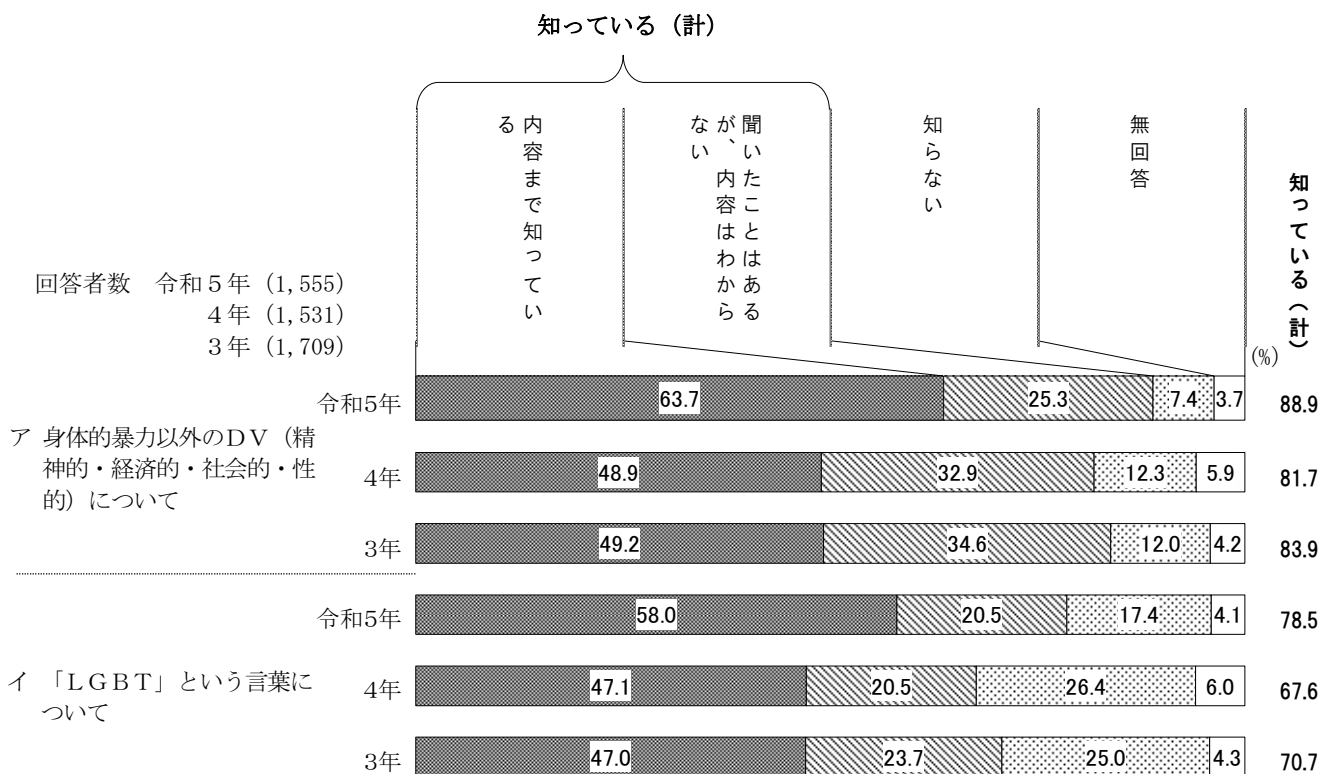
ア 単純集計・経年比較／「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況

(ア) 〈身体的暴力以外のDV〉は、「内容まで知っている」が63.7%で最も高く、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」(25.3%)を合わせた【知っている】は9割弱となっている。一方、「知らない」は7.4%となっている。

(イ) 〈LGBT〉は、「内容まで知っている」が58.0%と最も高く、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」(20.5%)を合わせた【知っている】は8割弱となっている。一方、「知らない」は17.4%となっている。

(ウ) 前回調査との比較では、「内容まで知っている」について、〈身体的暴力以外のDV〉では14.8ポイントの増加、〈LGBT〉でも10.9ポイントの増加と、ともに大幅に認知度が上昇した。

図9-7-1 経年比較／「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況



イ クロス集計・性別、性・年代別

／身体的暴力以外のDV（精神的・経済的・社会的・性的）について

（ア）〈身体的暴力以外のDV〉の認知状況を性別で見ると、【知っている】では特に大きな違いは無いが、「内容まで知っている」は女性（66.4%）の方が男性（60.0%）より6.4ポイント高くなっている。

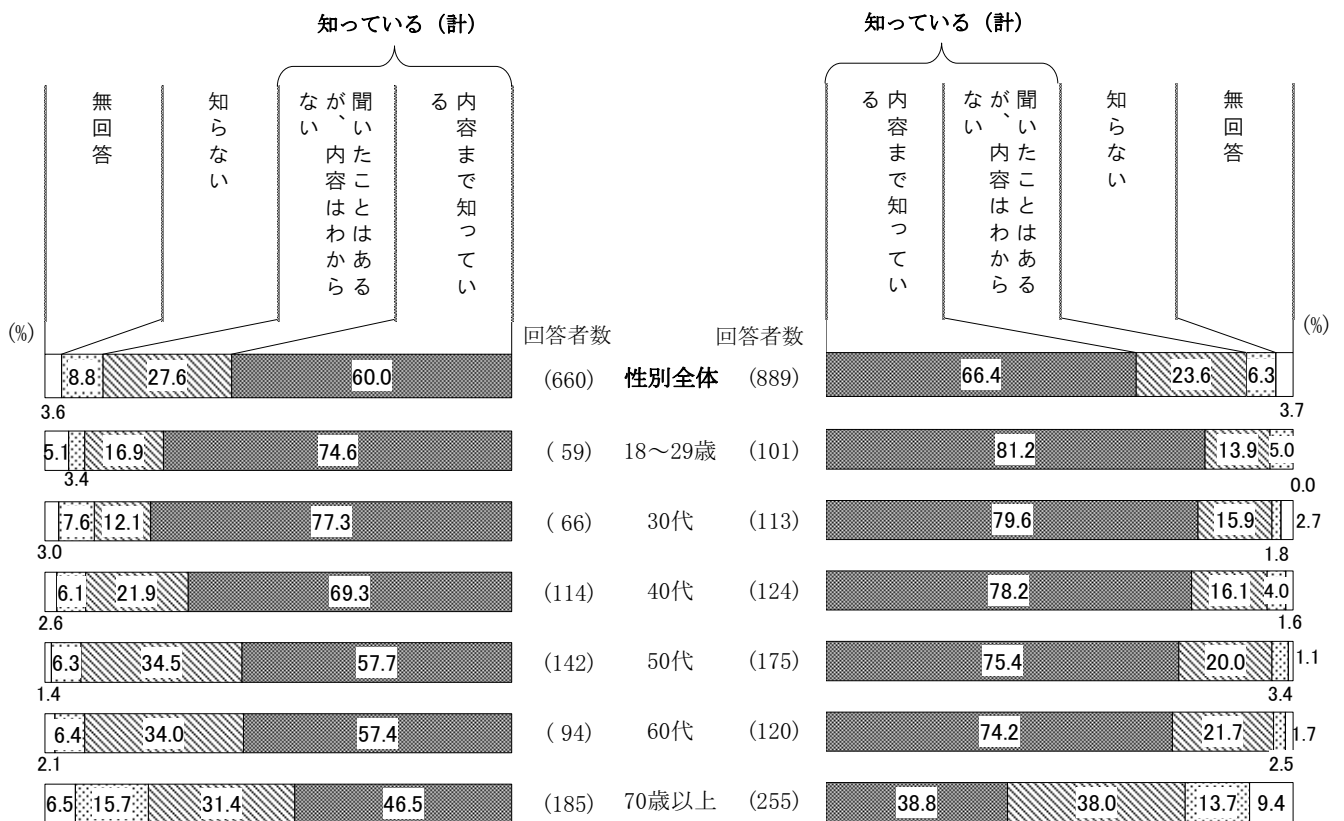
（イ）性・年代別で見ると、【知っている】は男性で18～29歳から60代までは9割前後と高く、70歳以上で7割台半ばと低くなっており、女性では18～29歳から60代までは9割台半ばと高く、70歳以上で7割台半ばと低くなっている。また、「内容まで知っている」で見ると、男女ともおおむね年齢が下がるほど割合が高くなっている。

図9-7-2-① 性別、性・年代別

／身体的暴力以外のDV（精神的・経済的・社会的・性的）について

【男性】

【女性】



ウ クロス集計・性別、性・年代別／「LGBT」という言葉について

- (ア) 〈LGBT〉の認知状況を性別で見ると、【知っている】では特に大きな違いはないが、「知らない」は女性（18.8%）の方が男性（15.6%）より3.2ポイント高くなっている。
- (イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は男性で18～29歳から60代までは8割台後半と高く、70歳以上で6割台半ばと低くなっており、女性では18～29歳から60代までは8割台半ばから9割と高く、70歳以上で5割超と低くなっている。また、「内容まで知っている」で見ると、男女ともおおむね年齢が下がるほど割合が高くなっている。

図9-7-2-② 性別、性・年代別／「LGBT」という言葉について

